

中平日は入るに及ばず、株尋常の花は、春彼岸に蔓を地中に伏根生じて後切放ち取るもよし、又同節に株を取分るもよし、名物の花は多分盆栽、或は棚に懸登せありて、取木になしがたし、故に勢ひよき株をもて寄接よまぎになすべし、因にいふ、河州刈田村の庄官が母屋子宅、兩家共に庭中なるは房長きこと五六尺におよべり、近世の名賞也。

〔禁秘御抄〕上 草木

藤壺藤懸 蝦手木上古非 蝦手歟 近來殊勝物也。

〔肥前風土記〕藤津郡藤津郡、昔者日本武尊巡幸之時、到於此津、日沒西山、御船泊之、明旦遊覽、繫船覽於大藤、

因曰藤津郡

〔古事記〕中 故茲神之女名伊豆志袁登賣神坐也、故八十神雖欲得是伊豆志袁登賣、皆不得婚、於是

有二神、兄號秋山之下水壯夫、弟名春山之霞壯夫、故其兄謂其弟、吾雖乞伊豆志袁登賣、不得婚、汝得

此嬢子乎、答曰、易得也。中 爾其弟如兄言、具白其母、即其母取布遲葛布遲二、而一宿之間、織縫衣、

及襪沓、亦作弓矢、令服其衣、揮等、令取其弓矢、遣其嬢子之家者、其衣服及弓矢、悉成藤花。

〔出雲風土記〕意字郡、凡諸山野所在草木、中 藤

〔萬葉集〕三 防人佑大伴四繩歌二首中

藤波之花者盛爾、成來平城京乎、御念八君。

〔萬葉集〕十九 十二日○天平勝寶二年四月 遊覽布勢水海、船泊於多祐灣、望見藤花、各述懷作歌四首○三

藤奈美能影成海之底、清美之都久石乎、毛珠等曾吾見流。

守大伴宿禰家持

〔伊勢物語〕下 昔おとろへたる家に、藤の花うへたる人有けり、彌生のつごもりに、その日雨そぼふるに、人の許へ、折て奉らすとしてよめる。